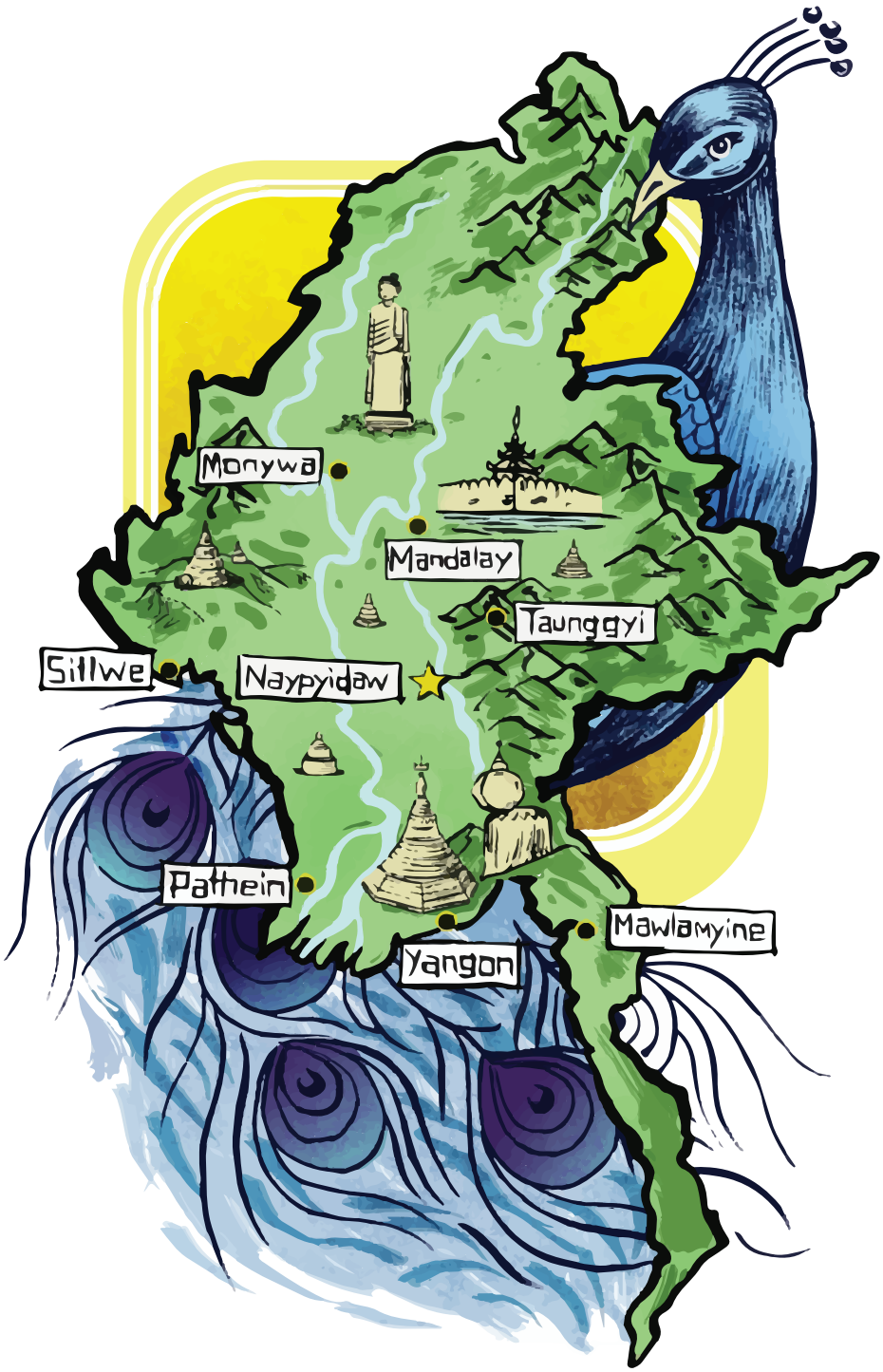
ミャンマー

祈りのガイドブック


Monywa
Mandalay
Taunggyi
Sittwe
Naypyidaw
Pathein
Yangon
Mawlamyine

Introduction

ミャンマー（かつてのビルマ）は何十年も世界から隔離されていましたが、社会主義政策と独裁主義が失敗に終わり、より開かれグローバル化した将来を手に入れるために着実に変化し続けています。2011年の総選挙で軍事政権から見せかけの民政政権が実現しました。2016年、長く反対勢力であった国民民主連盟（NLD）がついに政権を発足させました。しかし、重要な課題は今も残ったままです。

ミャンマーは気候変動に起因する災害の影響を最も受けやすい国の１つです。長きにわたる民族間の対立は暴力に発展し、長く停滞した和平プロセスは進展の兆しを見せつつも危ういままです。宗教グループ、特に大多数を占める仏教徒（90％近く）と少数派のイスラム教徒（約４％）の対立は、国家の発展にとって継続した課題となっています。貧困（特に農村部）は少なくとも全世帯の4分の1に及んでいます。

ミャンマーにおけるクリスチャンの証しは400年前に遡り、Nat Shin Naungは1612年に最初の殉教者となりました。プロテスタントの宣教師としてはフェリックス・キャリーが、その数年後の1813年にはアドニラム・シャドソンが、現地に入りました。当初、教会の発展はゆっくりでしたが、今日のミャンマーには3万人を超えるクリスチャンがおり、人口の6％を占めています。二人の副大統領の内の一人と幾人かの新政権の高官が、自分はクリスチャンであると表明しています。

ミャンマーのキリスト教会には宣教師によるめざましい働きの歴史がありますが、特に農村部の”未伝の”人々への宣教の状況はまだ芳しくありません。ビルマ族、モン族、シャン族、ラカイン族、パオ族といった仏教徒、またイスラム教徒、ヒンドゥー教徒に対する教会の成長もゆるやかです。教会とクリスチャンの大部分は少数民族です。

大宣教命令に従う者たちによって、ミャンマーにおいて力強い宣教の働きが起こされ、「キリストのためのミャンマー」というアドニラム・シャドソンの夢を現実のものとすることが私たちの祈りなのです。

仏教徒の中に霊的な突破口が開かれ、教会が成長しますように。

ミャンマーの教会とクリスチャンが福音の届いていない人々に目を向けるべく、霊的に新たにされ、立ち上がるように。

ミャンマーでの働きについてもっと知りたい方は以下のサイトをご覧ください。またはomf.org/opportunities かOumehc@psmail.netまでご連絡ください。また、フェイスブックのPray for Myanmar をフォローして最新情報（英語）をご覧になれます。

ISBN 978-0-9578780-0-6
© 2017 OMF International
Published by Hudson Press,
an imprint of OMF International
44 Rutland Road
Box Hill VIC
Australia
omf.org
Cover photo: guillenperez via VisualHunt / CC BY-ND
All rights reserved, including translation. No part of this book may be reproduced or transmitted in any form or by any means electronic or mechanical, including photocopying, recording, rewording, or any information storage and retrieval system without written permission of OMF International (2 Cluny Road, Singapore, 259570).
All Scripture quotations, unless otherwise indicated, are taken from the Holy Bible, New International Version®, NIV®. Copyright ©1973, 1978, 1984, 2011 by Biblica, Inc.™ Used by permission of Zondervan. All rights reserved worldwide. www.zondervan.com The "NIV" and "New International Version" are trademarks registered in the United States Patent and Trademark Office by Biblica, Inc.™

Day 1

収穫のための祈り

ミャンマー国内を定期的に旅すると様々な作物が季節毎に成長する様子を目にすることができます。耕された田畑、水をたたえた苗床、若い稲の輝く緑、頭を垂れ実りの色となった稲、刈り取りと脱穀作業、こうして季節は繰り返されます。それぞれの農作物には、それぞれの時期と季節があります。

ミャンマーにも様々な人々がおり、それぞれが独自の時と季節を持っています。それは彼らの文化や祭りにおけるものではなく、神様との歩みにおける季節です。収穫が終わり、新たな種まきが必要な人もいるでしょう。また、耕作が始まったばかりで、収穫はまだずっと先の人もいることでしょう。

この小冊子を通して、皆さんがミャンマーの人々のためにどのように祈ればよいか、さらに理解を深めていただけるならば幸いです。祈りによって私たちはパートナーとなり、主の時に美しい収穫をもたらして下さるように、収穫の神に祈ることができます。

カレン族、チン族、カチン族などの少数民族の地域で何世代も存続してきた教会が霊的に新たにされるように。

地元教会と働き人たちとの協力関係のために。

特に仏教徒の多い地域などまだ収穫のない地域での働きに知恵が与えられるように。

「涙とともに種を蒔く者は喜び叫びながら刈り取る。」(詩篇126:5)

Did you know?

ミャンマーは30分の時間帯に収まる世界で数少ない国の１つです。ミャンマーはUTC+6時間半で、隣国のタイと30分の時差があります。

すべての高い丘とすべての青々と茂った木

ミャンマーを訪れたことのない友人に、ミャンマーについて説明する時に私はよくこう話します。「欧米では街の中をドライブすれば、キリスト教会を１０以上は見かけるでしょう？でもミャンマーだとそれが１０以上の仏塔や寺院に変わるんですよ。」旧約聖書の多くの箇所に、高きところ青々と茂った木の下にことごとく祭壇を作る人々、についての描写がありますが、これは実際にすべての高い丘に仏塔があり、すべての青々と茂った木の下に寺院があるミャンマーについて述べているとも言えるでしょう。

どこに行ってもすべての高台では仏塔を目にしますし、便利で縁起の良い場所には更に多くの仏塔があります。「鶏がひっかいた場所」などのおもしろい名前がつけられているものなど、仏塔の多くにはその起源や由来にまつわる物語があります。高い丘だけではありません。私たちは洞窟を数か所訪ねましたが、そのすべてに仏塔や仏像があり、少なくとも一人の僧侶がそれらを管理しています。

タクシー乗り場の側には大きく茂った菩提樹があり、多くのタクシー運転手が客待ちをしています。木の幹には人々が供え物をする地元の精霊を祭る祠があります。花、線香、蝋燭、また多くの場合食べ物が供えられます。菩提樹があるところどこでも、木の幹に祠を見つけることができます。

ミャンマーの人々が被造物を崇拝するのではなく、神様の創造のすばらしさを喜ぶことができるように。

ミャンマーの人々が彼らを救うことのできる唯一の真実の神様を求めるように。

神様の住まわれる真の宮がミャンマーの人々の心の中に建て上げられるように。

「とこしえにほむべきかな その栄光の御名。その栄光が全地に満ちあふれますように。」
（詩篇72：19）

仏　教

Day 3

毎日通勤する時、バスはシュエダゴン・パゴダの塔とその周辺の回廊がよく見えるピー通りの区画を通ります。ヤンゴンの通りに立ち並ぶ古い建物や太い樹木などと比べると、それは本当に荘厳な眺めです。停電の夜でさえ、シュエダゴン・パゴダを照らし出す照明は消えることなく、暗闇の中の灯台のように塔を照らし出しています。

塔には金でできている部分があり、その他の部分も金箔で覆われています。その突端にはシュエダゴン・バゴダが誇る大きな宝石があり、見る角度により３色の異なる色に輝きます。私にはどの寺院のどの塔もミャンマーの仏教徒の世界観を表しているように思えます。塔の下部は悟りや高い境地に達することのできない大多数の人々を、そして傘に覆われ急勾配に伸びた上部は悟りの境地を表しています。それはいかなる煩悩もない涅槃、または無の世界です。

バスに乗っていると、多くの人が額の前に手のひらを合わせて心の中で祈ったり、ブッダから祝福されることを願ってそうした動作をしている様が見られます。ミャンマー人のほとんどは仏教の教義を完全に理解してはいませんが、家族がそうであるとか、単純にミャンマー人イコール仏教徒だという考え方ゆえに、自分は仏教徒だと主張します。多くのミャンマー人は貧しいのですが、彼らはヤンゴンを代表するシュエダゴン・バゴダやその他の仏塔の豪華さに驚嘆の声を上げます。より高い悟りの境地に達すれば達するほど、地上の富への思いは消えていくと仏教の教義がはっきり語っていることを考えると、これは皮肉な情景のようにも思えます。

ミャンマーの人々が、人の手によって作られた寺に収まることのない、宇宙を創られた生ける神様を知り、愛する者とされるように。

ミャンマーの人々が神様を知ることで、人生の豊かさを経験できるように。

「この世界とその中にあるすべてのものをお造りになった神は、天地の主ですから、手で造られた宮にお住みにはなりません。」（使徒17：24）

二人の僧侶との出会い

「自分の腕にとまっている蚊も殺せないのは、たまらなくもどかしいです。時々自分を抑えるのが難しい時もあります。サッカーが大好きなのですが、僧侶はサッカーをしてはいけないことになっています。」

ある日、私たちがヤンゴンで仏塔近くの公園を歩いていたとき、1人の若い僧侶が私たちに話しかけてきました。彼は英会話の練習をしたかったのです。会話の中で、彼は仏僧として多くの戒律を守らねばならないことへの悩みと挫折について話してくれました。涅槃に到達するために、僧侶は２２７の戒律を遵守しなければならず、殺生をしてはならない、というのはその一つです。また僧侶は全ての欲望から自らを切り離さねばなりません。

「涅槃に達するのは不可能です」と彼は締めくくりました。そして彼は私たちがクリスチャンかと尋ねました。神様はこのようにして、私たちに彼に福音を伝えるドアを開いてくださったのです。誇り高く自信ありげな彼は、あたかも私たちを励ますかのように微笑みました。

毎朝、彼のいる僧院には観光客たちが千人の僧侶の托鉢を見に押し寄せてきます。修業中の彼は西洋人に仏教の苦の消滅へ至る道を説くのです。さらにもう少し話を続けると、彼は今日食べ物を捧げた村人たちより自分は優れている、とこっそり打ち明けました。施しの行為は始まりにすぎません。瞑想が真の道なのです！彼は一日のほとんどを瞑想して過ごし、密林の奥深くで何か月も瞑想したことも何度かあったそうです。

さらに少しおしゃべりをした後に、私は彼に涅槃に近づいていると思うか、と尋ねました。彼はしばらく黙った後、ため息をついて静かに言いました。「はるかかなたの目標に到達するまでに、あと千回は生まれ変わらなくてはならないでしょうね。」

自分の弱さに直面しているこの若い僧侶や他の僧侶たちのために。彼らが真理を追い求め始めるように。彼らに真理を伝えることのできる人を、神様が彼らの人生に備えてくださるように。

神様が彼らの目と心を開いて、御言葉を理解し信じるように。

「あなたがたは真理を知り、真理はあなたがたを自由にします。」（ヨハネ8:32）

Day 5

彼方(かなた)の偶像

ミャンマーのすべての仏塔には言い伝えがあり、マンダレーのマハ・ムニ・パヤーの仏像も例外ではありません。しかし、本堂脇のお堂に立ついくつかの青銅の像には、より長い物語があります。像の頭上にある説明書きによれば、青銅の像はマハ・ムニ・パヤーの仏像と一緒にタイとの戦争における戦利品としてラカイン州からマンダレーに運ばれました。

これらの像に触ろうとする人々の列が絶えることはありません。自分の身体の弱っている部分と同じ個所をなで、その手でまた自分の具合の悪いところに触ると調子が良くなるという言い伝えがあります。そのため、人が最も病を抱えがちな部位は磨かれてツルツルに輝いています。しかしこれらの像はアマツヤ王が戦利品として持ち帰ったエドム人の偶像(Ⅱ歴代誌25章14-15節)と同じで、人々を助けることはできません。

神様がミャンマーの人々の目を開き、青銅の像は無力であることが彼らにわかるように。

人を救うことも癒すこともできない偶像から離れることができるように。

人を救い癒すことができる創造主のもとに帰ることができるように。

「わたしが主である。ほかにはいない。わたしのほかに神はいない。」(イザヤ45:5)

Did you know?

仏教は国教と考えられており、50万人の仏僧がいます。

Day 6

精霊（守護神）の力

その人は何かをつぶやきながら寺院の前に立っていました。私はちょっと離れたところに座っていましたが、特に気にとめていなかったので、彼の声は聞こえていませんでした。しばらくして、彼は偶像の前にあった賽銭用の籠を持ち上げ、ベンチの上５センチ程度のところで止めました。

籠を戻し、私の方を見た彼は「今の見た？」と言いました。「何とか籠を持ち上げようとしたんだけど、できなかったよ。」

「賽銭がいっぱいで、とても重かったのでしょう？」と私は何気なく答えました。
「いやいや。私は『あなたが真実であるなら、頭上に籠を上げさせないで下さい』と祈っていたんだ。それから本当に全力で持ち上げようとした。見てごらん、本来なら簡単に持ち上げられるはずなのに、できなかったんだよ」と、彼は片手で軽々と籠を持ち上げてみせました。

そこではじめて、私は起きていたことを理解しました。私は「ナッ」と呼ばれる精霊の存在と力の証人にさせられていたのです。自分を「真の」仏教徒と考える彼はナッを礼拝はしませんでしたが、それでもその力に対し敬意を示したのでした。

ミャンマーには全部で３７のナッが存在すると言われます。そのほとんどは精霊になる前に非業の死を遂げています。ミャンマー人の多くは御利益を求めて捧げ物をしたり、厄難にあったり罰せられたりしないようにとナッに祈るのです。

彼らが生活の中でもっと偉大な神の力に気づくことができるように。

上記のような精霊の力にどう対応したらよいか、知恵が与えられるように。

人々を支配するナッの力と人々のナッへの依存心を神様が打ち破ってくださるように。

「救いと栄光と力は私たちの神のもの。」（黙示録19:1b）

信じないわけにはいかないのです

「精霊の存在を信じざるを得ないのです。そうしたくなくても、信じないわけにはいかないのです。」

あるミャンマー人の友人は高学歴の持ち主で、欧米に住んでいたこともあります。彼のような人たち、そして自分を純粋な仏教徒と考える人たちの中には「精霊の存在は信じていない」と言う人も多くいます。

しかし精霊の働きを何度も目にしているため、精霊の存在を信じざるを得ないと彼らは言います。精霊は彼と彼の母親に夢の中で話しかけ、子供が生まれる前に赤ちゃんの性別を知らせてくれたり、仕事上の裁判で勝訴するための情報を告げてくれたりしたそうです。これらのことゆえに、友人は精霊の存在を信じざるを得ない、と言います。

人々はイエス様に従う前に、イエス様が土着の精霊よりもっとリアルで力があることを知る必要があります。また、この国で日々生きていく上で起きる様々な困難においても、イエス様は彼らを助けることができることを知らなければなりません。

イエス様が実在し生活の中で働かれることを、地元のクリスチャンが自らの人生を通して示すことができるように。

神様からのしるしや不思議なわざが示される時、それに伴うメッセージも人々に明確に伝わるように。

「私たちの格闘は血肉に対するものではなく、
支配、力、この暗闇の世界の支配者たち、また天上にいるもろもろの悪霊に対するものです。」
（エペソ6:12）

Did you know?

ミャンマーの人は一般的に姓を持ちません。伝統的に子供の名は生まれた日の曜日によって選ばれます。曜日ごとにミャンマー語の文字があてられているのです。

Day 8

２度あることは…

去年は私の友人の親族にとってひどい年でした。親戚が２人亡くなくなってしまい、皆悲嘆にくれ、落ち込みました。そして皆が心の中で同じ運命は３回続くものだ、ということを思い出していました。もしそうならば、次は誰なのでしょうか。

緊張が高まり、ついに叔母が占星術師のところに、次に死ぬのは誰かと聞きに行きました。占星術師はそれは私の友人の母親だと告げました。

驚いたことに、その母親は心臓の問題（不整脈）を起こし、2週間に3回も病院に行くはめになってしまいました。しかも、彼女がもう自分は余命わずかだと感じているにもかかわらず、病院の検査では深刻な問題は何も見つけられないのです。他方、彼女に気づかれないようにしながら、家族はすでに葬儀の準備を始めました！

まだ信仰を持ったばかりの友人は、この占星術師の予言のため信仰を揺さぶられています。

占星術師に信頼する家族を持つクリスチャンが、信仰と神様の確かな主権の上にしっかりと立つことができるように。

人生についての助言を占星術師に求める人々が、希望の真の源であるイエス・キリストを見出すことができるように。

「しかし、これらすべてにおいても、私たちを愛してくださった方によって、私たちは圧倒的な勝利者です。」（ローマ8:37）

Did you know?

ミャンマーには散髪について広く信じられている迷信があり、誰も月曜日、金曜日、また自分の誕生日に髪を切りません。

新年おめでとう

歩道から若い家族連れが我が家の前の通りに入ってきました。彼らは左右を見回して私たちを見つけると近づいて来ました。私は椅子を出して母親に座るように勧め、女の子は道の脇で前を通り過ぎる車に水をかけている我が家の子供達とおそるおそるながら一緒に遊び始めました。私たちは互いに自己紹介し、おしゃべりを始めました。子供達が水を使い切ったところで、その家族は来た道をまた戻って行きました。

翌日の夕方の同じ頃、彼らはまた歩道に現れて我が家にやって来ました。翌日も、その翌日もやって来ました。水祭りが終わるまでに、私たちの間には友情が芽生えていました。

その家族は近くの村から来ており、ご主人の両親が我が家の後ろの通りにある家の１つに住んでいました。義理の両親を訪ねて来て散歩をしていたときに、私たちが家の外で水をまいているのを見かけたのでした。水祭りの後も、彼らは義理の両親に会いに来る土曜日には、よく私たちを訪ねてくれました。私たちは仏教のこと、イエス様のことなどをたくさん話し、村の彼らの家を訪ねたりもしました。

この一連の出来事は私たちにとって本当に驚きでした。ミャンマーでこんなに早く人と関係を築けたことは今までなかったからです。

新年の水祭りは人間関係を築くのに絶好の機会です。クリスチャンにとっても水祭りが隣人との関係を築くよい時となりますように。

多くの人にとって水祭りはただのお楽しみです。しかし水は前年の凶事を洗い流すと考えられています。それが可能なのはイエス様だけであることを人々が知りますように。

「友はどんなときにも愛するもの。」（箴言17:17a）

綱引き

群衆は路上でひしめき合い、また興奮し、ざわめいていました。バンドの演奏が始まると、長く重い綱がピンと一直線に張られ、埃が舞い上がるステージ横の地面に線がひかれました。片方に約50人の男性、反対側にはたくさんの女性が集まりました。ステージからかけ声がかけられたかと思うと大歓声がまき起こりました。「女、引っ張れ！女、引っ張れ！」「男、引っ張れ！引っ張れ！」徐々に男性陣が引きずられてついに中央の線を超えました。女性は「勝った！勝った！」と勝利の叫びを上げ、小躍りしています。ステージでは歌い手が勝利の歌を歌い始めます。

これは地域の交流会で、絆や友情を深め、競技を楽しむひと時です。しかし、ミャンマーにおける他のすべてのことと同じように、これにも霊的な意味があります。

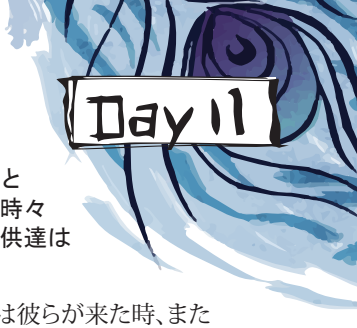
クリスチャンの部族にとっては、これは間違いなく参加できないお祭りです。しかしミャンマー人のクリスチャンにとって白黒はっきりした答えが出ないことが多くあります。ミャンマーの正当な文化とは？仏教徒とは？ミャンマーの風習すべてを放棄しなければいけないのか？

お祭りは外国人にとって地域社会に溶け込む上で良いきっかけとなります。コミュニティに関わろうとする者として、より容易に受け入れてもらえるのです。しかし、ミャンマー人クリスチャン同様、お祭りは私たちにとっても思うほど明確な判断がつかないものとも感じます。注意深くとは？純粋な楽しみとは？霊的なものとの境界線はどこなのか？

ミャンマーのクリスチャン（その他の人たちも）が、自己の文化の何を置き換えるべきか、また何が受け入れられるのかを見極められるように。また自分たちの立ち位置も明確にできるように。

外国人労働者がその国の文化と御霊の導きに敏感になれるように。

「心を尽くして主に依り頼め、自分の悟りに頼るな。あなたの行く道すべてにおいて、主を知れ。主があなたの進む道をまっすぐにされる。」（箴言3:5-6）



家族のための祈り

私は都市部に住んでいます。夫がどこにいるのか正確にわかりません。息子と娘は私の両親と一緒に村に住んでいます。ときどき学校が休みの時に子供達は私に会いに来ますし、私も時々彼らに電話をします。母と姉が子供達の世話をしてくれ、子供達はいとこや近所の子と一緒に学校に行っています。

今、私はクリスチャンですが子供達はまだ仏教徒です。子供達には彼らが来た時、または私が彼らに会いに行った時に聖書のお話をしますが、まだ十分とはいえません。私は村に戻って子供達と一緒に住み、家族全員がイエス様を知る手助けができるようにずっと祈っています。

仕事や教育問題をめぐって多くの家族が引き裂かれています。都市部に住むと色々な新しいことに出会う可能性が開かれますが、家族をさらに隔てることにもなります。

地元の村に戻り、家族に福音を伝えたいと願うこの若い女性や同じような境遇の人たちのために。

クリスチャンたちが自信を持って家族にイエス様を伝えられるように。必要な忍耐や根気も与えられるように。

彼らの家族が心を開いてイエス様について聞くことができるように。

彼らに心身を壊すことなく適切な収入が得られる仕事が与えられるように。

若いクリスチャンが、家族に福音を伝えるために地元の村に戻るというチャレンジを神様から与えられるように。

「…すべての聖徒のために、忍耐の限りを尽くして祈りなさい。」（エペソ6:18b）

お父さんはどこ?

ある知人の男性は運転手として働いていました。彼は3年にわたり私が孤児院へ行く時の移動を助けてくれました。ユーモアがあり、子供達をとても愛し、何年にもわたり自宅で孤児の面倒をみていました。このようにすばらしい人柄であるにもかかわらず、彼は酒癖が悪く、毎日浴びるように酒を飲み、奥さんと子供達を殴ることもしょっちゅうでした。

酔っている時の彼は自分が何をしているかわからなくなっているようでした。やがて彼は仕事を失い、肝臓を悪くし、ついに深刻な病気になってしまいました。「医者からはもうあまり長くないと言われている」と彼の奥さんは私に話してくれました。

私はすぐに入院中の彼を訪ねました。彼は腹部がふくれた状態で椅子に座っていました。前日までは意識がもうろうとしていましたが、その日は幸いにもしっかりと話すことができました。私が話しかけると、彼は「祈って下さい」と繰り返し言いました。彼は神を信じていましたが、自分がどこに向かっているのか確信がなく、自分の命は長くないことも知っていました。私たちは罪の赦しのため、そして彼が天国に行けるようにと共に祈りました。

数日後、彼は穏やかに息を引き取りました。まだ44才の若さでした。

これはミャンマーでよくある話の１つです。多くの人たちがアルコール中毒になり、終日居酒屋で過ごしています。彼らは家庭内暴力を起こし、お酒で所持金のすべてを使い果たしてしまうのです。お酒をやめなければ、とわかっていても自己管理ができません。そして職を失い、家族を失い、ついには命を失ってしまうのです。

しかし、彼らが人生の真理と、自らが変わるための道とを必死に求めている場合が多いことも事実です。

アルコール中毒者たちのために。彼らが神様の愛を知ることができるように。

家族が神様を信頼し、神様だけが彼らの家族を変えられることを知るように。

父親が絶望的な状況から救い出され、家族を真に祝福することができるように。

「ですから、子があなたがたを自由にするなら、あなたがたは本当に自由になるのです。」
（ヨハネ8:36）

Day 13

母親を恋しく思って

私はこの若いミャンマー人の女性と話すのが好きです。彼女はいつも朗らかでよいアイディアに満ち溢れている人です。そんな彼女とは、ごく自然にミャンマー語の練習ができるのです。しかし、今日の彼女との会話は思いもよらぬ方向に発展しました。

私たちが様々な気持ちを表す単語について話していた時のことです。彼女が自分はいつも物事を否定的な側から見がちで、感情がとても不安定なのだと言ったのです。全くそんな風に思っていなかった私は、とても驚いてしまいました。

その後、彼女は数年前に母親を亡くしてから、近所の人たち、そして彼女が友達だと思っていた人たちさえもが、彼女に対して態度を変えた、と話してくれました。彼女を無視する人たちもいたそうです。彼女はとても傷つき、母親を恋しく思ったそうです。母親の死によって人生に対する見方は劇的に変わった、と彼女は言いました。私には彼女の隣人や友人の変化の理由は完全には理解できませんでしたが、彼女のことを思うと心が痛みました。

ミャンマー人の平均寿命はきわめて短く、多くの人がまだ若い内に両親の一人または両方を失います。笑顔の裏にひっそりと隠れた、両親の死による苦しみに私が接したのはこれが初めてではありません。

ご自分の子から決して離れず、見捨てることのない永遠の天のお父様との出会いによって、こうした人たちの心の痛みや傷が癒やされるように。

神様が神の子供達を導き、傷ついている人たちに出会わせて下さるように。

「母に慰められる者のように、わたしはあなたがたを慰める。」（イザヤ66:13）

Did you know?

ミャンマーでよく目にするクリームは、タナカという木の樹皮を粉にして水とまぜてペースト状にしたものです。多くのミャンマーの女性や子供は美容のための化粧品としてタナカを顔に塗っています。天然の日焼け止め、皮膚を冷やす作用もあります。

ライフステージ

何年か前に、仏教徒のミャンマー人男性に自分の信仰について定期的に会って話す機会がありました。親しみやすい人で彼の奥さんはクリスチャンでしたが、彼自身はキリストを信じる必要性を見いだせないでいました。実際、彼はこう言うのです。「引退してからクリスチャンになることを考えるよ。」

その時、私はそれは彼の個人的な考えだと思っていました。しかし最近、ミャンマー人の牧師が「ミャンマー人は人生を３つのステージに分けて考えるのですよ」と教えてくれました。「成長と教育」、「仕事と家庭」、「定年退職と宗教への帰依」の３つです。これが友人の言葉の文化的背景を理解する助けとなりました。

人々が神様の声を聞いた時に、心をかたくなにしたり、神様を後回しにすることがないように。

それぞれの年齢層にどのように福音を伝えるか、知恵が与えられるように。

「どうか教えてください。自分の日を数えることを。そうして私たちに、知恵の心を得させてください。」（詩篇90:12）

Day 15

交友関係の難しさ

マ・ニ・ニはマ・ス・ラインと同じ会社で一緒に働いていました。二人ともイエス様を愛しており、神様の愛を職場で示したいと思っていました。しかし、年上のニ・ニが若い職員たちの指導責任を持つようになってから、年下のス・ラインはニ・ニの態度に徐々にストレスを感じるようになりました。

ス・ラインは職場の彼女の交友関係にニ・ニが嫉妬しているのだと感じたため、仕事以外では彼女と話さなくなりました。ス・ラインはそのことを友達に話しましたが、職場では何も問題がないかのように表面上笑顔を見せていました。しかし、彼女の心の中では感情が煮えくりかえっていました。

そうこうするうちに、ス・ラインは上司に話すことなく会社を辞めました。同時期にニ・ニも辞表を提出しました。

ミャンマーの文化では人間関係の問題について話したり、仲介役として第３者が入ることは大変困難です。人々は和解の方法を見つけられず、何度も何度も職場を辞め、給与の不払いや、長期の失業などのリスクにさらされます。

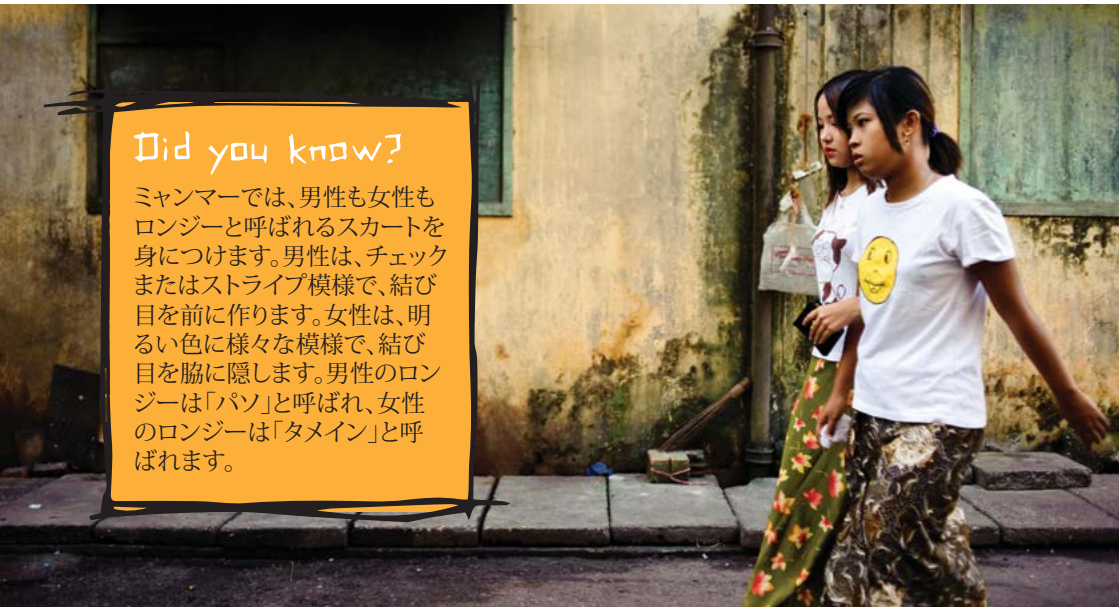
教会内においても、これは難しいテーマです。

人々がミャンマーの社会にふさわしい赦しと和解の方法を見い出せるように。

教会が和解と赦しを学ぶ場となれるように。

この領域において、クリスチャンがよい模範となれるように。

「互いに忍耐し合い、だれかがほかの人に不満を抱いたとしても、互いに赦し合いなさい。」
（コロサイ3:13）



Did you know?

ミャンマーでは、男性も女性もロンジーと呼ばれるスカートを身につけます。男性は、チェックまたはストライプ模様で、結び目を前に作ります。女性は、明るい色に様々な模様で、結び目を脇に隠します。男性のロンジーは「パソ」と呼ばれ、女性のロンジーは「タメイン」と呼ばれます。

Did you know?

ミャンマーはGDPの半分以上を農業に依存しています。コメは主要な農産物です。.

自然災害

ミャンマーは自然災害が急速に増えている国としては世界第３位と言われ、今後数十年にわたり、気候変動の影響を最も受けやすい国の１つと考えられています。ここ数年、広域にわたる洪水の発生は恒例になっています。

政府の対応は向上してはいるものの、経済的・地域的影響はしばしば数年間に及びます。教会のグループを含む多くのボランティア組織が、洪水災害の被災者に相当量の援助を行っており、これが地域社会がキリストの愛に関心を向ける要因ともなっています。

ミャンマーに福音が伝わった当初、クリスチャンたちがデルタ地域の厳しい飢饉に対応したことで、何千人ものカレン族がキリストへの回心に導かれました。最近も宗教や民族を超えた形で、被災者に対する無私の援助や支援が行われ、それはクリスチャンとノンクリスチャンの壁を取り払う主なきっかけになっています。

災害原因への対処に政策レベルで取り組んでいる担当者たちのために。よりよい災害対策のため。

洪水などの災害に対応する教会のグループが、大胆かつ繊細な愛を持ち、かつ実践的であることができるように。

援助を受ける人々が、援助を通じてキリストと彼らに対するキリストの憐みを知ることができるように。

「また、愛と善行を促すために、互いに注意を払おうではありませんか。」（ヘブル10:24）

Day 17

農村地域の生計と貧困

ミャンマーの農村地域の世帯に対し、貧困をテーマにした調査が行われました。一般的に貧困というと所得と資産が主要な問題になりますが、ミャンマーでは大半の住民や農村地域が、生計手段の不足がイコール貧困だ、と答えました。

仕事を持つことは、十分なお金または物質的な資産を持つこと以上の価値を持ちます。日常的な搾取、不公正な貿易、気候変動、土地の略奪などすべてが農村の生計手段の獲得を阻んでいます。そのため、多くの若者は仕事を求めて都市や海外に移住します。

たとえ地域に根ざして生活を営んでいても、農村の半分の世帯は自分の土地を持っていません。土地を持たない農民はより高い割合で貧困、不安定な生活、経済的困難に陥ります。土地の無い農民は自作農に比べ、約3倍も自然災害や経済的な打撃に弱く、約2倍も食糧不足に陥りやすいのです。

政府は農村開発が貧困削減の鍵となる、と主張していますが、前政権が差し押さえなどで不法に入手した土地の返還、公正な慣行の実施など、政府がやるべきことは多くあります。

貧困削減への道のりはしばしば長く複雑で、頻繁に紛争を生み出します。旧約聖書は地境の移動について警告していますが、ミャンマーにおいても小作農の衰退が招く経済的影響はあまりにも歴然としています。

農民が生計を立て直すことができるよう、迅速で効果の出る農地対策がなされるように。汚職や紛争が行われることなく、土地返還が公正に行われるように。

ミャンマーの地方の未来を支援するため、農村の経済を強化し、貧困削減に尽力する政府やＮＧＯで働く人々のために。

「貧しい者は決して忘れられることがなく、苦しむ者の望みは、永遠に失せることがない。」
（詩篇9:18）

障がい者に福音を伝えるために

30代前半のジョールィンは生まれつき全く耳が聞こえません。家族が大変良く世話をしていますが、彼は深い孤独を感じています。昨年まで、彼は家族以外の人と食事をしたことがなく、学校にも行ったことがありませんでした。大多数の聴覚に障がいのある人と同様、彼は手話ができず、日常の些細なコミュニケーションをとることさえ大変です。

ミャンマーで障がいを持つ人は、幼少期から特に不利になることが調査で明らかになっています。教育の機会がないことで、障がいを持つ多くの人が社会的に孤立してしまいます。読み書きのできないジョールインのような聴覚障がい者は特にそうです。

クリスチャンのある小さなグループが、障がい者へライフスキルや職業訓練をすると同時に福音を伝えるプロジェクトを立ち上げました。しかし、障がい者に深い真理や概念を伝えることは、言葉の壁に加えて大変な困難を伴います。手話の訓練はこのギャップを埋めることに徐々に役に立っていますが、まだその道のりは長くけわしいのです。

現在、障がい者にも伝道するという考えに積極的に応じる教会はわずかです。多くの人にとって主な障壁は先入観であり、人々は障がい者を神のかたちに造られた人と認めるよりもむしろ同情の目で見ます。そのため、1万人を超す障がい者の中で、ふさわしい形で福音に接することができる障がい者はほんのわずかなのです。

障がい者の中から救われる人が起こされるように。創造的な方法で福音を伝えようとしているグループのために。様々な種類の障がいを持つ人にふさわしい方法でコミュニケーションをとることができるように。

より多くの教会が積極的に礼拝や教会の活動に障がい者を受け入れていくように。

「主は弱い者をちりから起こし、貧しい人をあくたから引き上げ…」（詩篇113:7）

刈り尽くす

他の文化圏に長く住んでいると母国の文化とは違った見方が与えられ、聖書を読む上で新たな視点を与えてくれます。その１つの例が、農作物を刈り尽くしてはいけない、という聖書の律法です。福利厚生の財源をほとんど、または全く税収に頼っていない文化では、これは社会的弱者を守る手段として大変重要なのです。この律法はもちろん生活のその他の場面においても適用されます。

街の中を歩いていると、残り物のコメとカレーを入れた袋が木にぶらさがっているのを普通に見かけます。食べ残しをゴミと一緒に捨てたり冷蔵庫にしまうのではなく外に置くことによって、必要とする人が物乞いすることなく持って行くことができるのです。同様に経済的に余裕のある人は、まだ状態のよい洋服を他者にゆずります。

一方、外国人はしばしば「ケチ」とみなされます。私たちはちょうど必要な量だけ調理し、食べ残すことはありません。私たちは洋服を着つぶし、あとは掃除用の雑巾にします。持ち物の管理について私たちが適切と思う考え方は、寛大であることと相反する場合が多いのです。しかし、神様は人々の必要を御心にとめておられます。私たちは何を手本にすべきなのでしょうか。どのようにしたら文化的に正しい方法で寛大になれるのでしょうか。

働き人たちが外国人としてミャンマー文化の長所を見つけ、その良さを大切にできるように。

福音伝道の妨げになるかもしれない文化的な差違に、働き人たちが気づくことができるように。

社会の中の貧しい人をどのように助けたらよいか、知恵が与えられるように。

「あなたがたが自分の土地の収穫を刈り入れるときは、畑の隅々まで刈り尽くしてはならない。収穫した後の落ち穂を拾い集めてはならない。また、あなたのぶどう畑の実を取り尽くしてはならない。あなたのぶどう畑に落ちた実を拾い集めてはならない。それらを貧しい人と寄留者のために残しておかなければならない。わたしはあなたがたの神、主である。」

（レビ記19：9-10）

Day 20

異文化コミュニケーションと伝道方法の大切さ

私がまだ１９歳で若いクリスチャンだった時、なぜクリスチャンになったかを証しする機会がありました。すると、ある年配の男性がやって来て、「自分が罪人だということも理解しているのか」と聞いてきました。その時私は内心動揺しました。

現在、私は自分を孤独なよそ者のように感じる思いから、主が救い出して下さったと思っています。かつての私が最も必要としていたものは罪の赦しではなく、むしろ自分を人と関わるに値しないとか、完全な失敗者と思ったりすることからの救いでした。

今、私はイエス様が恥にまみれた良心から私を救ってくれたことがわかります。一方、あの年配のクリスチャンが求めていたのは罪過からの救いでした。ミャンマーの殆どの仏教徒は、彼らの恥と自尊心に関わる問題への答えを求めています。しかし、多くの宣教師が学んだ福音を伝える方法は罪の神学に基づきます。

ミャンマーで新しく働き始めた者にとって、取り組まねばならない違いは恥と罪だけではありません。ミャンマー社会は、正義よりも協調を遙かに重んじ、単刀直入ではなく間接的な言い方、個人よりも地域社会、平等よりも階層制度を好みます。このことは、西洋式の価値観と世界観で教育された働き人が、新たにミャンマー文化を受け入れようとするときに問われることです。

働き人が、伝道方法を受け手の必要に合わせる必要を理解し、イエス様のように謙虚になり、ミャンマーで関わりたいと思う人々に対して適切な異文化奉仕者になれるように。

日常会話また証のために、言葉と文化の学びが前進するように。

仏教の世界観を持つ人々の質問に答えられるような伝道教材の開発のために。

「自らを低くして、死にまで、それも十字架の死にまで従われました。それゆえ神は、この方を高く上げて、すべての名にまさる名を与えられました。」（ピリピ2:8-9）

惑わされて

ある若い男性はイエス様について熱心に人々に語っていました。時間があれば村に行き、子供達や家族に神様について話していました。職場では、教会に行く時間が確保できるように、日曜日は働かないとの立場を貫いていました。彼は一生懸命働きながらも、自由になる時間は神様に仕えるために用いていました。

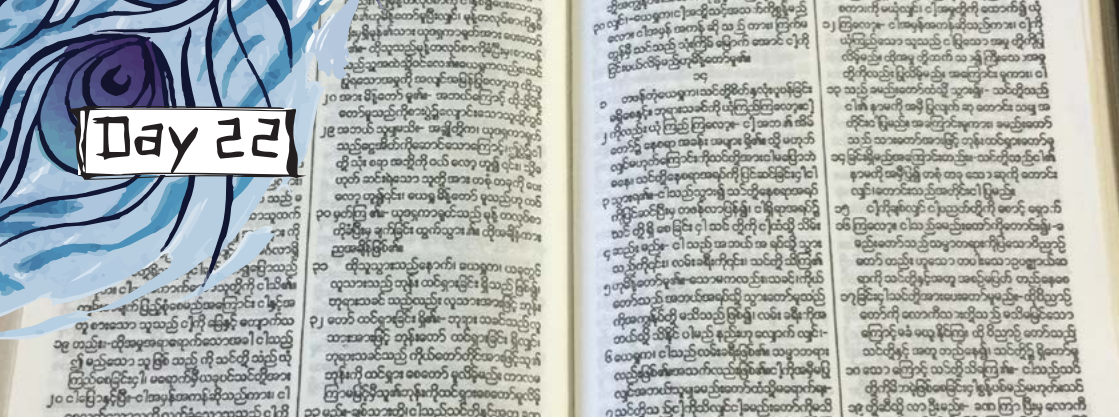
悲しいことに、現在彼は滅多に村に出かけなくなってしまいました。日曜日も教会の前に仕事があるため、ほとんどいつも遅れて来ます。そして礼拝の後も他の仕事を入れています。時には日曜礼拝さえも守ることができません。神様のために使っていた自由な時間も、もはや自由時間ではなく、教職の準備に全ての時間を費やしています。
何が起こったのでしょうか。雑草がはびこって、彼の情熱を覆い隠してしまったのです。

これは珍しい話ではありません。サタンは自分の領域を犯そうとする神のわざに対抗して、人の人生の中に雑草の種をどんどん蒔き続けているのです。

福音を宣べ伝えようとする人々が守られるように。
この若い男性や彼のような人々が神様からチャレンジを与えられ、人生の中にはびこった雑草を取り除き、神様のための情熱を取り戻すことができるように。

サタンが主の証人を 1 人倒そうとする時、神が熱心な証人を新たに 2 人起こして下さるように。

「茨の中に蒔かれたものとは、みことばを聞くが、この世の思い煩いと富の誘惑がみことばをふさぐため、実を結ばない人のことです。」（マタイ13:22）



救いをもたらす書物

子供の時、私はお釈迦様を拝み、できるだけ良いことをしました。そうしなければ来世で動物や化け物のようなものになるかもしれないと信じていたからです。私はより良い来世を願っていました。しかし、心の中には自分の良い行いは十分だろうかという疑問がいつもありました。そのため、私は死ぬことをとても恐れていました。

ある日、私は不思議な夢を見ました。夢の中で私は村に行ったのですが、村は静寂に包まれており、そこには誰もいません。私は「こんにちは。誰かいますか？」と叫びました。突然、私の前に男性が現れました。その手には1冊の本があり、彼は「人々は皆死んだ」と言いました。私は彼に「あなたが彼らを殺したの？」と尋ねました。彼は「自分は殺していない」とはっきり言いました。

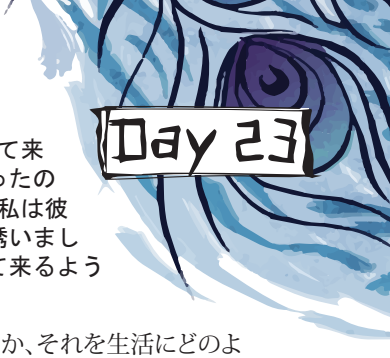
それから彼は「あなたは死ぬことを恐れているようだね」と言いました。彼が私の思いを知っていることに大変驚きながらも、私は「そうです」と認めざるを得ませんでした。彼は私に「もし死にたくないならこの本を読みなさい」と言って、その本をくれました。その本を開き始めると、なんと死んでいたたくさんの人たちが突然生き返り、起き上がりました。しかし、その男性は突然見えなくなり、私はそこで目を覚ましました。この夢を見た後、私はその本を見つけたいと思いました、それが自分を救ってくれるだろうと思ったのです。

3ヶ月後、日曜日の英語の教室に参加しました。そして私はその後に始まる日曜礼拝と呼ばれるものにも出席してみることにしました。そしてある日、私が夢で見たのは聖書であることに気がつきました。初め、私は自分の発見についてあえて誰にも話しませんでした。私はただ祈って、神が真実であるかどうかを教えてくれるように神様に祈ったのです。その時、神様が私を呼ぶ声が聞こえたのです。

この証をし、彼女の新たな主となられたお方に忠実に仕えているこの少女に神がして下さったように、様々な場所で行われている英語教室に通う多くの若者に、神様がご自身を表して下さるように。

また、主を信じた人の家族のために。子供の一人が全く新たな生き方を選んだと知った親は、しばしばそれを受け入れがたく感じるものです。

「そのように、わたしの口から出るわたしのことばも、わたしのところに、空しく帰って来ることはない。それは、わたしが望むことを成し遂げ、わたしが言い送ったことを成功させる。」
（イザヤ55:11）



神様の愛を知る

大学生のモーモーは、5年前に私たちの聖書研究会にやって来ました。彼女は友達に会うためにそこに来ていただけだったので、3時間の聖書研究の間、ただ静かに座っていました。私は彼女の隣に座り、翌週私の家で一緒にお昼ご飯を作ろうと誘いました。私たちは親しくなり、私は彼女が聖書研究会に続けて来るよう励ましました。

学生たちが御言葉を自分で読み、そこに何が書かれているのか、それを生活にどのように適応するのかを互いに分かち合えるように、私は徐々に求道者向けの聖書研究の仕方を伝えていきました。

ある日、私たちは放蕩息子についての学びをしました。学びの後、モーモーは私の所に来て、神様は彼女を愛するために彼女を待っているように思う、と話してくれました。彼女はこのたとえ話を知っていましたが、このとき初めて、神様の愛を個人的に理解したのです。彼女は人生をイエス様に捧げる決心をしました。モーモーの信仰は成長し、しばらく後にはお母さんをイエス様に導くという喜びも与えられました。

彼女は今聖書研究のリーダーで、学生達の良い模範となっています。学生達は彼女から学び、彼女の後に続こうとしています。

学生達に彼らに対する天のお父様の愛を知る機会がさらに与えられるように。

大学のキャンパスで集まり聖書研究を行う機会が学生達にさらに与えられるように。

学生のリーダーが聖書研究を導くことができるよう整えられ、他の生徒のロールモデルになれるように。

「多くの証人たちの前で私から聞いたことを、ほかの人にも教える力のある信頼できる人たちに委ねなさい。」（第２テモテ2:2）

ソーシャルメディア

2014年2月から、熱心な若者が小さなグループを作り、フェイスブックで日々の聖句と写真を共有しています。このグループはミャンマーのクリスチャンが聖書中心の人生を送るように励まし、まだ信じていない人たちに福音を届けようとボランティアで働いています。すでに2万4千人以上がフォローしており、御言葉を受け取った多くの人は、その写真を友人にシェアしています。

ミャンマーのほとんどの人はインターネットを即ソーシャルメディア、と考えています。2014年に携帯電話が広く普及し始めてから、インターネットの利用は急速に広まりました。2年間で、人口の12.6％がインターネットを利用し、その多くは熱心なフェイスブックのユーザーです。これは7万人に相当し、そのほとんどは若者です。

ソーシャルメディアを通じた福音伝道は、福音を広く遠くまで伝えています。同時に、チームはコメント１つ１つに個々に対応しています。毎週、多くの人々から幅広い質問を含むメッセージが多数送られてきます。多くの場合、チームメンバーは数分以内にそれらに返信し、より個人的なレベルで御言葉を分かち合っています。

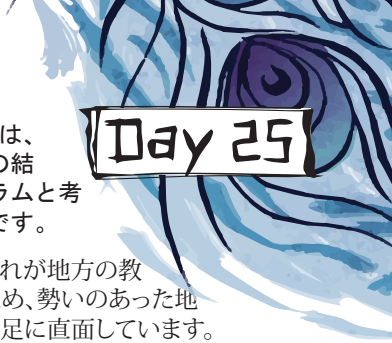
フェイスブックはまた、ミャンマーのための国を超えた祈りの輪の構築と維持のためにも使われています。現在、世界中で約6,500人ものクリスチャンがフェイスブックの「Pray for Myanmar」をフォローし、ミャンマーのための祈りの課題を毎月受け取っています。

フェイスブックで御言葉を熱心に伝えているこの若者のグループに感謝しましょう。

多くのクリスチャンが、イエス様を知らない友達に御言葉や写真を分かち合えるように。.

様々な質問に答え、フォロアップをしているチームに、必要な知恵と感受性が与えられるように。

「あなたのみことばは、わたしの足のともしび 私の道の光です。」（詩篇119:105）



変わりゆく情勢

ミャンマーの地元の教会と連携する時に難しいことの1つは、めまぐるしく変わる地域の事情を理解することです。その結果、ある場所や、またはかつて有意義だった研修プログラムと考え方が、もはや以前ほどに役に立たなくなってしまうのです。

農村地域の家庭の5軒に1軒は、移住の影響を受けており、これが地方の教会の様子を一変させています。若者が農村地域から離れるため、勢いのあった地方の教会は会衆の減少と、次世代のリーダーとなる若者の不足に直面しています。

同時に、都市部の教会は数字上は勢いを増し、都市周辺部の広大な工業地帯への宣教の必要性が益々強調されています。

海外への移住は諸刃の剣です。多くの場合、ふるさとに届く仕送りは小さな地方教会の財政上の生命線です。しかし、支えられてきたコミュニティーから離れた多くの弱いクリスチャンは乱れた生活スタイルに陥ってしまいます。一方、ノンクリスチャンの移民がコミュニティーの繋がりを教会に求めた結果、タイやマレーシアなどへの移民の間で、教会は急速に大きくなっています。

では、宣教や開拓において、どのように地元の教会と協力すべきでしょうか。

ミャンマーにおける最大教派（バプテスト）からの要望の１つは、調査を行って移民の動きや課題についてより深く理解することです。このことによって、より宣教的な意味を持った移住が進められ、教会は移住者と積極的に働くことができます。人々の移住先で宣教できるリーダーや教会を育てること、移民のクリスチャンが定住先で積極的な伝道者になることが目標です。このためには社会的変化のただ中にあって、古い考え方や構造を再考し、神学的に考えようとする姿勢が必要です。パートーナーシップ関係にある我々の役割は、「共に歩み、共に話し合うこと」また、御国の成長のための新たな方法を考えることです。

地元の教会と誠実で謙虚な対話ができるように。

地元の教会、外国からの働き人双方が、新しい考えに心を開けるように。

移民による教会で良き弟子訓練がなされるように。また、「宣教のための移民」を担うリーダーの育成のために。

「同時に、私たちのためにも祈ってください。神がみことばのために門を開いてくださって、私たちがキリストの奥義を語れるように祈ってください。」（コロサイ4:3）

Day 26

官庁のクリスチャン

以前の政府において、官公庁の管理職についたクリスチャンはいましたが、政府の要職に任命された人は殆どいませんでした。今日、新しい政府における副大統領と上院の議長が少数民族出身のクリスチャンとして有名です。クリスチャンは、大臣、大使、国家相談役、多くの国会議員を含む様々な政府の要職についています。

しかしながら、その責務は重く、中には、特定の民族や宗教について考えを主張する有権者からのプレッシャーが、すべての人に仕えるという責務との軋轢を生むこともあります。同様に、何十年にもわたる孤立状態からの国を率いていくことの膨大な課題はすさまじく、多くの公務員はとにかく疲労困憊しています。

すべてのクリスチャン政府職員が勤勉かつ誠実で、賄賂を拒否することができるように。

クリスチャンの政治家が国を導く上で、聖書的な信仰をどのように適用したらよいか知恵が与えられるように。また、教会の知恵あるリーダーや相談役が政治家たちをサポートできるように。

クリスチャン議員幹部が、現職の議員たちの信仰成長だけでなく、神に忠実な次世代のクリスチャン政治家のために、必要な基礎を築いていけるように。

「主はあなたの時を堅く支え、救いと知恵と知識の富となられる。主を恐れることは、その財宝である。」（イザヤ33:6）

Photo: Henry Van Thio by Ye Ni / The Irrawaddy

パオ族

ミャンマーの数多くの少数民族の１つであるパオ族は、独特の言葉を話し、鮮やかな色彩の布のターバンを巻き、シャン州南部、モン州の一部そしてヤンゴン地方域に住んでいます。政治的に巧妙なかけひきを通して、パオ族は中央政府から相当な自治権と経済成長の手段を手にしました。

パオ自治区の大半の村には少なくとも小学校が１つあります。「開発途上地域」と称されていた場所にしては注目に値します。パオ族の間では仏教が部族統一の鍵であり、地域の村々のいたるところに建てられた僧院がそれをよく証明しています。少数派のパオ族クリスチャンは差別されたり、仏教徒のパオ族から懐疑的な目で見られるなどして、その生活は楽ではありません。

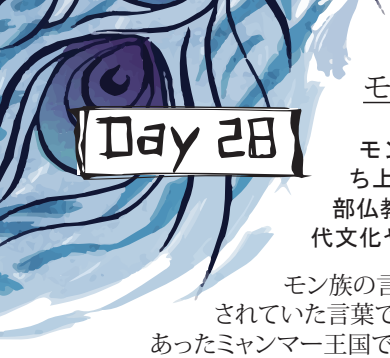
経済的困難が続く中、パオ族クリスチャンの若者の多くは選択の余地なく、通常タイに仕事を求めて移住します。それにより、次世代のリーダーの育成がより困難になってしまいます。パオ族語の聖書は、新約聖書が現在入手可能ですが、旧約はまだ翻訳途上です。

パオ族の数少ない教会が内的、外的に強められるように。パオ族の若者に地元での就職機会が与えられ、彼らが地元で将来教会に貢献できるように。.

聖書翻訳者とパオ族の教会リーダーのために。福音のために次の世代を育てていくことができるように。

文化的に高い障壁を乗り越えて、パオ族に福音を伝えられるように。

「その後、私は見た。すると見よ。すべての国民、部族、民族、言語から、だれにも数えきれないほどの大勢の群衆が御座の前と子羊の前に立ち…」（黙示録7:9）



モン族

モン族は、東南アジアにおいて最も初期の王国の１つを立ち上げた部族です。ミャンマー、タイ、ラオスの地域に上座部仏教を広め、歴史的に重要な役割を果たし、ミャンマーの近代文化や宗教に影響を与えました。

モン族の言葉はビルマ語と区別され、かつてはミャンマー南部で最も話されていた言葉です。しかし一連の大きな紛争により、モン王国は拡大しつつあったミャンマー王国での支配を失いました。多くのモン族はビルマ族に同化し、ビルマ族と見分けがつかなくなりました。しかし今でもモン族語と文化を維持している人たちがタイと国境を接するモン州の南東ヤンゴン地方に住んでいます。

仏教徒が大多数を占め、モン族語の完全な聖書がある一方で、クリスチャンは少数派のままです。経済的窮乏によって、若者は仕事を求めてモン州や国を出て行きます。彼らは特に人身売買や薬物依存の被害者になりがちです。

モン族のクリスチャンが信仰において一致し、幅広いモン族のコミュニティーで福音のために働くべく強められるように。

モン州の教育と経済状況が改善され、若者が地元コミュニティーに残れるように。現在他の州や国で働いている人々が生きて働くイエス・キリストに出会えるように。

教会が地域における麻薬の乱用、人身売買、児童労働などの課題に積極的に取り組めるように。

「主の霊がわたしの上にある。貧しい人に良い知らせを伝えるため、主はわたしに油を注ぎ、わたしを遣わされた。捕らわれ人には解放を、目の見えない人には目の開かれることを告げ、虐げられている人を自由の身とし…」（ルカ4:18）

Photo: Mon National Day by Timo Jaworr / The Irrawaddy

拒絶された者への神の愛

14才のイェはラカイン州の出身で、生まれつき片足がありませんでした。父親はイェの母親に「この子を死なせてしまおう」と言ったこともありました。数年後、母親はクリスチャンになり、イェも続いて信仰を持ちました。彼はとても活発で、義足でサッカーを楽しんでいました。彼が10代の頃、両親に対して反抗的になったことから、両親は彼を遠くの学校に行かせようとしました。彼は学校の友達の影響で仏教の修行僧になることさえ考えていたのです。

夏休みの間、イェは10～15才対象の教会のキャンプに1ヶ月間参加することができました。彼の義足の支援者は、イェがこれまでに受けたすべての拒絶に対して、神様が神の愛を彼に示してくれるように祈っていました。

ある夜、キャンプリーダーが全員に神の愛について話し、両親の代わりとなって、子供たちに親の罪を赦してくれるよう求めました。30人の子供の多くは涙を流していました。イェは外へ走り出し、誰よりも大声で泣き叫びました。その後、彼は完全に自由になりました。

キャンプの後、イェは家に帰り、家族全員の前で彼の反抗的な態度について両親に謝りました。これは「恥の文化」の社会では驚くべき事です。仏教徒の父親でさえもこの行動に心を動かされました。

ラカイン州の次世代のクリスチャンのために。より多くの10代の若者が信仰において強くされ、若いときから健全な人生の選択ができるように。

まだ信仰を持ったばかりで、健康上の問題から働いたり教会に行くことのできない中年層のクリスチャンのために。

ヤンゴンや他国に移住したすべてのラカイン州出身者が、民族的な問題や宗教的困難から守られるように。

世間から取り残され散らされた人々が信仰を持ち続けられるように。

１週間に７日働き続ける工場労働者の若者に伝道する道が開かれるように。

「また、主にふさわしく歩み、あらゆる点で主に喜ばれ、あらゆる良いわざのうちに実を結び…」(コロサイ 1:10)

人間をとる漁師

約7年前ラカイン州の漁師であるT. S氏は、飲酒による肝疾患の癒しを２人のクリスチャンに祈ってもらいクリスチャンになりました。1週間もたたない内に彼は完全に癒やされましたが、本土から船で5時間かかる島に住んでいたため聖書もなく、5年間クリスチャンとの交わりもありませんでした。

その後、彼はヤンゴンに仕事を探しに出てきてクリスチャンとの交わりを見つけ、妻を呼んで数ヶ月間クリスチャンファミリーと共に滞在しました。この間、彼は熱心に御言葉を学び、貧しい人たちを助けることに大きな関心を示しました。やがて彼は他のクリスチャンと一緒にデルタ地方の村に行き、幼稚園を建てたり、浄水器を作ったりしました。

「俺は自分の村がこの国で最も貧しい地域だと思っていたが、実はもっと貧しい村が他にもあったんだ。」自分の村に戻った彼はこう言いました。彼が訪れた村々の人たちは、彼の実際的な支援と謙虚な態度に好印象を持ち、彼にまた帰ってきてほしいと頼むほどでした。

その後、T.S氏は悪い習慣を断ち切るコースの研修を受け、自身の葛藤について打ち明けました。数年間飲酒をやめていましたが、金銭的な問題がきっかけで再びアルコールに手を出してしまいました。その後は神様と仲間のクリスチャンの助けによって再びお酒をやめ、完全に縁を切れるように努力しています。

家で再び漁師として働いた18ヶ月間に、T.S氏は何人かの漁師を信仰に導きました。彼らは地元の宗教指導者からの反対に遭いましたが、T.S氏は、宣教を続けるなら村から追い出すとの脅しにもかかわらず信仰にとどまりました。地域開発に関する研修を受けた彼は、福音が村全体を変えうるというビジョンを持つようになりました。

ラカイン州内に散らばって住み、恐れを抱いているクリスチャンたちに信仰、大胆さ、奇跡が与えられるように。

ラカイン州の人々が飲酒、喫煙、キンマの葉を噛むなどの習慣から解放されるように。

ラカイン州のクリスチャンが民族至上主義を乗り越え、まだ救われていない他民族への愛を深めていけるように。

ラカイン州のクリスチャンが福音による全人格的な変革のビジョンを持つように。そしてそのビジョンが個々人の経験として、またチームの働きを通して広がっていくように。

「…人間をとる漁師にしてあげよう。」（マルコ1:17）

Did you know?

キンマの木の実はゆるやかな麻薬性があり、タバコ、香辛料、石灰ペーストと混ぜます。ミャンマーでは多くの人がこれを噛み、つばを吐いて、歯や歩道を赤く染めています。

OMF

Heart for Asia. Hope for Billions.

omf.org